

米国 5ヵ月連続の減少 (15年4月鉱工業生産)

発表日：2015年5月15日(金)

～製造業が鈍化したほか、鉱業、公益が下振れ～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治

03-5221-5001

鉱工業生産 (Industrial Production and Capacity Utilization)

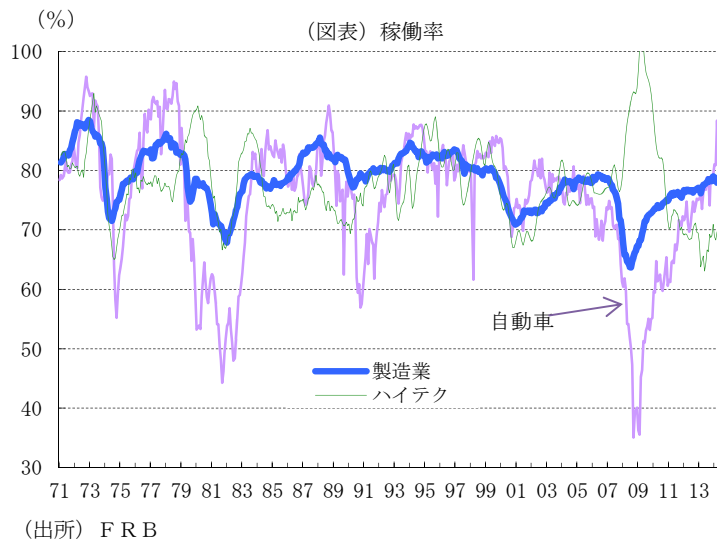
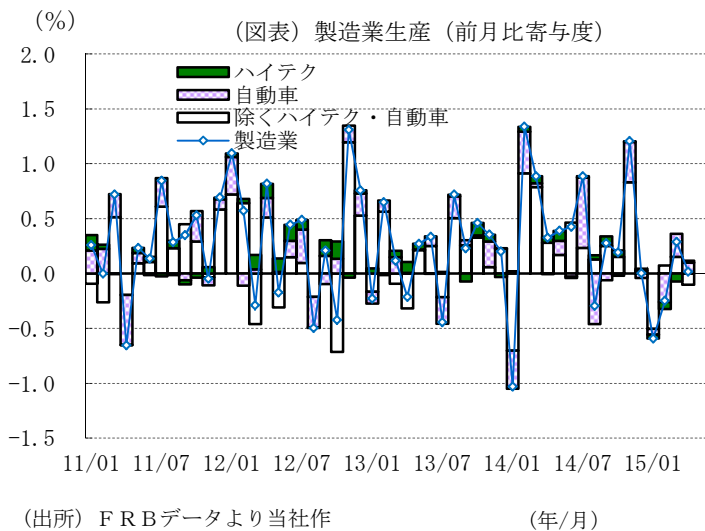
	鉱工業生産		製造業 (NAICS)							設備稼働率	製造業 (NAICS)	生産能力
	前月比	5ヵ月連続	製造業 (NAICS)	鉱業	公益	ハイテク 関連	除ハイテク 関連	自動車関連				
14/04	+0.1	(+3.9)	+0.3	+2.1	▲5.1	+1.5	+0.2	+0.2	+79.0	+77.7	+0.3	
14/05	+0.5	(+4.3)	+0.4	+1.0	+0.3	+2.3	+0.4	+2.3	+79.1	+77.8	+0.3	
14/06	+0.4	(+4.5)	+0.4	+1.6	▲2.0	+0.2	+0.5	+0.0	+79.2	+78.0	+0.3	
14/07	+0.3	(+5.1)	+0.8	+0.2	▲3.0	▲0.5	+0.8	+9.4	+79.3	+78.5	+0.3	
14/08	▲0.0	(+4.5)	▲0.3	+0.9	+0.7	▲0.3	▲0.3	▲7.2	+79.1	+78.2	+0.3	
14/09	+0.7	(+4.4)	+0.2	+0.9	+4.2	+0.6	+0.1	▲1.8	+79.4	+78.2	+0.3	
14/10	▲0.0	(+4.3)	+0.2	▲1.1	+0.4	+0.9	+0.1	▲0.5	+79.2	+78.2	+0.3	
14/11	+1.1	(+4.8)	+1.2	▲0.5	+3.6	+0.0	+1.2	+6.0	+79.8	+79.0	+0.3	
14/12	▲0.1	(+4.6)	▲0.0	+2.6	▲5.0	▲0.5	+0.0	▲1.2	+79.5	+78.9	+0.3	
15/01	▲0.3	(+4.5)	▲0.6	▲1.2	+3.3	▲0.7	▲0.6	▲1.0	+79.2	+78.3	+0.1	
15/02	▲0.1	(+3.5)	▲0.2	▲2.1	+4.9	▲0.8	▲0.3	▲3.5	+78.9	+78.0	+0.2	
15/03	▲0.3	(+2.3)	+0.3	▲0.1	▲5.4	▲0.5	+0.3	+4.3	+78.6	+78.1	+0.2	
15/04	▲0.3	(+1.9)	+0.0	▲0.8	▲1.3	+0.2	▲0.1	+1.3	+78.2	+78.0	+0.2	

4月の鉱工業生産は前月比▲0.3%と5ヵ月連続の減少

15年4月の鉱工業生産は、前月比▲0.3%と市場予想の同0.0%を下回り、5ヵ月連続の減少となった。ただし、1、2、3月合計で0.2%ポイント上方改定されたことを考慮すると、概ね市場予想どおりの結果といえる。公益が気温の上昇を受けた3月の大幅な落ち込みの反動もあり、前月比▲1.3%とマイナス幅を縮小したものの、製造業が同+0.0%と鈍化したほか、鉱業が石油掘削などの落ち込みにより同▲0.8%とマイナス幅を拡大した。

製造業生産は、前月比0.0%と横ばいにとどまった。港湾ストの影響を受け落ち込んでいたハイテクが増加に転じたものの、自動車・同部品生産が3月に悪天候や西海岸の港湾ストの影響から立ち直った反動により鈍化したほか、航空機、食品・飲料・タバコ、アパレルが減少した。堅調な自動車を除く製造業生産は前月比▲0.1%と減少しており、自動車以外の調整色が強まっている。

稼働率をみると、鉱工業が78.2%、製造業が78.0%と前月比でともに低下した。製造業の稼働率は00年5月以降、約15年間80%を上回っていない。また、72年-14年の平均稼働率は鉱工業80.1%、製造業78.6%となるが、4月の稼働率はともに下回っている。72年-14年の平均稼働率を上回った業種は、加工金属、一般機械、電気設備・同部品、自動車、航空機、家具、アパレル・皮革、石油・石炭、化学。特に、需要の堅調な電気設備・同部品、自動車、航空機は平均稼働率を大きく上回っており、これらの業種では増産投資の増加が期待できよう。

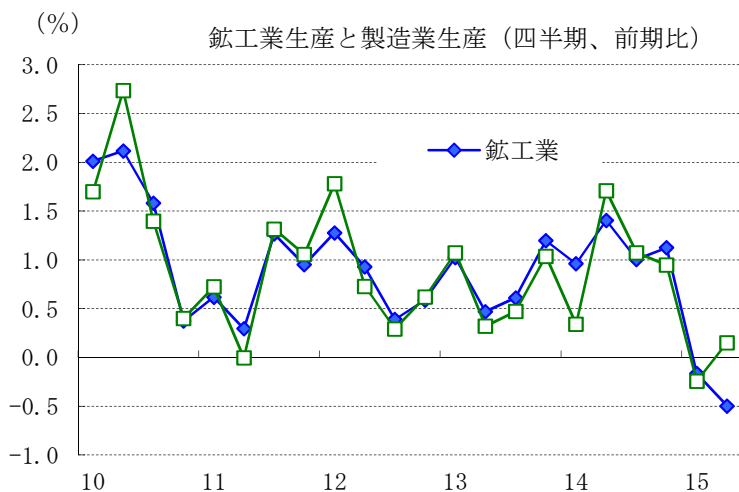
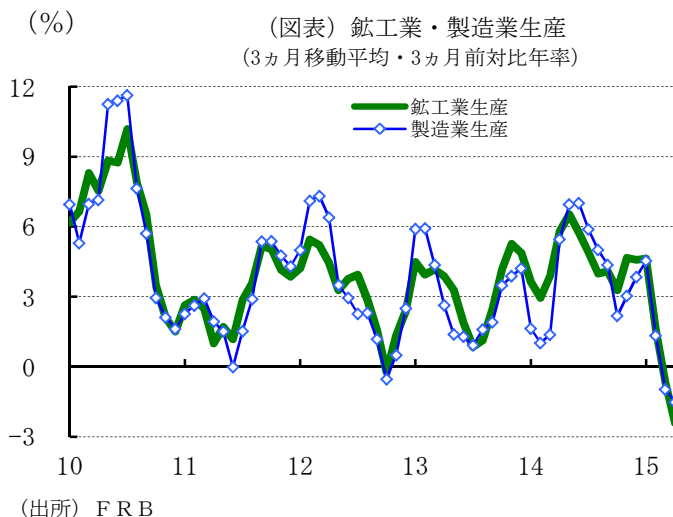


**鉱工業生産は、3か月
前対比、前期比でマ
イナス幅を拡大**

3ヶ月移動平均・3ヶ月前対比年率では、鉱工業生産が▲2.4% (前月▲0.7%)、製造業生産が▲1.5% (前月▲1.0%) と、ともにマイナス幅を拡大した。

四半期では、4月の鉱工業生産は1-3月期比年率▲2.0%と1-3月期の前期比年率▲0.7%から減少幅を拡大した。アメリカ経済が15年4-6月期も停滞を続けていることを示している。ただし、自動車の拡大等により製造業は1-3月期年率比+0.6% (1-3月期前期比年率▲1.0%) とプラスに転じた。

今後、西海岸の港湾ストの影響が徐々に解消されるにつれて製造業の生産活動は回復するものの、在庫が過剰に積み上がっているほか、ドル高、海外需要の停滞等を背景に、拡大ペースは緩やかなものとなる公算が大きい。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。